WASON
HQ
1104
J74+

Mar. 1894
no. 371

明治十八年初刊

女學雜誌

毎週土曜日發兌

第三百七十一號

要目

○社說
虚實空聲
○講壇
大典祝式に於ける演說
○兒籃
たんぽぽ
○書架
御垣の下草（稅所敦子家集）を讀む
○論說
男女間の詩趣
○史傳
英國女王陛下の御情交

明治二十七年三月十七日發兌

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

第三百七十一號目録

社説

虛實空聲

女子教育衰ろへたる乎

女學校卒業生は學者なる乎

舊日本に女子教育なかりし乎

女權擴張とは何の意義ぞや

講壇

大典祝式に於ける演説

兒籃

たんぽぽ(若松しづ子)

文しらべ

白河樂翁公の婦女訓(及、評)

史傳

英國女王陛下の御情交

初めて心置なき御物語

草の屋の老婆

ともに朗吟し玉ふ

日々御行事

御産殿の介抱

書架

御垣の下草を讀む

税所敦子が歌

論說

男女間の詩趣(上野南城)

蝶夢集をよむに

片々

府下同盟女學校連合祝式

久成法師

開要子教育會

海外女報

シヽリ島に於る婦人の社會黨

スウイデン國なる婦人の法學博士

英國殖民協會の婦人演説

知己ならぬ婦人をキスして罪なし

授産婦人千九百三十

倫敦なる婦人救助會

眞の勇婦

英國文人世界

露國の退歩

有名なるベサント夫人

時報

◎皇室○銀婚式の盛典◎華族女學校の小學主務○新女子高等師範學校長○信州の子守養育所○明治唱歌會◎教育に熱心なる父母○山岡女史の賞與○可憐貞女○慈悲深き婦人○德行奇特者賞與數◎演劇と兒童○北海道婦人の矯風○遊廓移轉○同設置○同規則の改正◎女學雜誌前號の發兌日

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第三百七十一號

明治二十七年三月十七日發兌

社説

虚實空撃

人ありて言はく、女子教育、衰ろへたりと。何によつて其の衰ろへたることを知れりやと問へば、女學校生徒の數著ぢるしく減じたるによつて知れりと答ふ。然れども、女學校生徒の減じたる一事は、何を以て女子教育全躰の衰ろへたることを證するやと問へば、其人大率ね答ふることなし。

人誰れか其娘を愛せざらんや。之を愛して誰れか其の良縁を望まざらんや。既に良縁を望まば、之をして良家に適應せしめんことを欲するは當然なり。此に於てか、嫁を得んことを希望する良家の趣好は、娘を持てる父母が教育上の標準となり、遂に一般女子教育の氣風をつくる。此故に、明治十七八年の頃ほひ、世人只管ら歐化主義に迷へる時節には、嫁の西洋風ならんことを欲するの需要多きと共に、娘を西洋風に教育せんとするの心掛あり、則はち、西洋風女子教育非常の流行にして、かゝる種類の女學校に來學するものの多かりしは、當然の數なり。左れば、時運一轉し、世間反動保守に僻し、世人再たび日本の古風を慕ふの時節には、嫁の古風ならんことを欲するの需要多きと共に、娘を日本古風に教育せんとするの心掛あり、則はち、昔し風女子教育非常の流行にして、かゝる種類の女學校にあらざれば、來學するもの尠なく、然らざれば、大抵、家内に閉居して、古への女藝をのみ學ぶことならんは、等しく亦た當然の數なり。これを以て、明治十七八年に、西洋風女學校の女生徒多かりし所以は、即はち近時二三年に女生徒少き所以と同じ。潮の滿干は、水の進退なり。滿つることあるは、即はち退ぞくことあるの所以にして、必竟、同一理由に因る。單に目前の形象に拘泥して、潮の干たるは、水の減したるなりと言はんものあらば、誰か、其愚を笑はざらんや。左れば、近時二

三年の間は、○○○○西洋風の女子教育衰ろへて、○○○古風の女子教育盛なりとこそ言はめ、之を安くんぞ、女子教育本躰なるもの、盛衰なりと言ふとを得んや。女子教育は、近時二三年依然として活潑なり。もし其大躰より言はゞ、明白に年々進歩しつゝあり、決して退歩せざるなり。此故に西洋風の女子教育衰へたりと言とを得べきも、單に女子教育なるもの衰へたりと言とあらば、是れ誤謬也。

人ありて言はく、◎◎◎◎◎◎◎女學校卒業生は、◎◎◎◎◎學者なりと。何によりて、其の學者たるとを知れりやと問へば、學校を卒業せしが故なりと答ふ。然れども、學校を卒業して初めて學者たらば、學校に學ばざるものは、學者にあらざるかと問へば、其人漠然として答ふる所ろなし。

夫れ、今人の弊は、學校を買ひかぶるにあり。學校を目して教育全能の所ろとし、總ての教育、もしくは八九分の教育、みな此所ろに於て施こさると誤認するもの多し。教育は、人の一生なり。學問は、天地宇宙なり。包羅關係の事情、何れか人の教育たり開發たり學問たらざるものあるべき。單に學校卒業後の實地經驗を以て生きたる

學問なりとするのみならず、學校在學中と雖ども、學科外に莫大の學問はあるなり。抑そも、學校は、平凡の教育所なり、平凡普通の教育を施こすとを得ば、其任は盡したり。之に不當の望を掛くるによりて失望あり。亦之に不當の責を全任するによりて、不足あり。學校學科が人を教育するは、極めて貧しきもの也。男子學校すでに然り、女學校に於ては、殊に尤とも然りとす。學校教場の教ゆる所は、女子緊要の修學の十分の三にすら越へず。其塾舍の教ゆる所も亦た、十分の二にすら越へず。他の圓半の教育は、決して此の所ろに求むべからざる也。之を安くんぞ、女學校に於て悉とく圓滿の女子教育を要むべけんや。然るに、人は、女學校に學ぶとを以て女子教育の能事了れりと信ず。父兄如此く安んずるによりて、其他に掛念するとなし。掛念するときは、則はち女學校教育なるもの、不滿足に怨言す。子弟如此く安んずるによりて、學校外に智識あるとを知らず。故に又之を求むるとを知らず。學校科定の業を卒ゆれば則はち學問成就せりと誇る。共に誤まれり。不當の不平、過高の高慢、

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

何れも此の誤解より發す。女學校の敎えたる學問は、普通平凡の智識を組織したるものなる耳、經驗ある婦女子は、大抵之を識得せり、何の新らしきヿかあらん。左れば、女學校の卒業生は、別段の學者にはあらず、尋常一と通りの婦女子と同等の人なり。之を學者としてもてなす可らず。又、學者として自から任ず可らず。

右一節は、主として普通女學校、即ち女子尋常中學校及び所云る高等女學校などの程度につきて立論せり。

人は曰く、舊日本には女子敎育なかりき、新日本に至りて初めて女子敎育あり、故に、古風の婦女子には、毫も敎育なし、近來の女學生初めて敎育を得たりと。然れども、何によりて、舊日本に女子敎育なきヿを知り、古風の婦女子に敎育なしと斷言するヿを得るやと問へば、其人、單に女學校なかりしが故と答ふるの外なし。然らば、女學校あらずんば、總ての女子敎育なるものあらざるにやと問はゞ、其人語塞がりて初めて反考するの躰なり。

夫れ、既に能く良人を助くるヿを知り、既に能く家を修むるヿを知り、既に能く兒を敎ゆるヿを知る。而して、一朝、事あれば、劍に伏して操を守るヿを得。良人先んじ玉へば、廉節よく遺命を奉ずるヿを得。如此き婦人を指さして、敎育なきの婦人とせば、抑そも、敎育なるものは、何ものぞや。文字を知り、博物の理を辨まへ、万國の地理歷史を暗らんじ、ウイラード、ナイテンゲールの名に親しみあるものの謂なる乎。もし夫れ、女德の貞潔なるヿ維新前よりも劣り、女性の決心凜烈たるヿ維新前よりも劣り、良人を助け、兒子を敎訓するの力、維新前よりも劣らんには、是れ女子敎育の效果、維新前よりも劣れりと言ふ也。之を安くんぞ、女學校の有無、英語の隆盛、女生徒の人數の增減等によりてのみ、女子敎育の有無盛衰を判定すべきものならんや。

人は曰く、女權擴張せざる可らずと。左らば、現在に於ては、女權如何ほどに乏しきやと問ふに、其人知らず。將來如何の方向に擴張せんとするやと問ふに、其人未だ定らず。單に、女權を擴張せざる可らずと言ふの旨義は如何んと問ふに、其人、茫々焉として邊あるヿなし。

夫れ、女子は權力多きもの也、何れの世か、女子に權な

きとかあらん。一顰一笑、城を傾むけ、國を傾むくるの勢力はあり。何を以て之に權力なしと言はんや。左れば、女權を擴張すとは、『如何なる方角』に擴張すとの旨義を明言するにあらずんば、殆んど意味なきの言語たり。世上すでに女權莫大なるに、今日初めて女權を擴張せんと云ふの必要あるべからず。彼の單に女權擴張を說きて擴張の方向、區域、性質等を辨ぜざるものは、流に對して水の動かざる可らざるを慨言すると同じ。而して、此の慨言に對して、事新らしき反響のなきとを怨むとも、何の益あらんや。如何んとなれば、水は初めより動きつゝあれば也。

嗚呼、虛を擧つて實となし、空野に叫んでかぜを引く。智識なき慷慨は、無益の疲勞なり。過分の要求は、不平の種を播くの外なし。審らかに因果の理を察し、明らかに盛衰の道を考がえ、正しく憤ふり、適宜に勉め、圓滿に盡力して、平和に安心し、以て、大道を發揮し、人情を溫養するは、識者の務めか。夫れ、吾黨の戰ひは、空を擊つものたる可らず。

講壇

大典祝式に於ける演說

左は、三月九日第廿五春大典の折、府下同盟女學校が催ふしたる連合奉祝の會に於て演述せし大意の筆記なり。

同盟女學校が連合して催ふしたる會場にて演說いたしまするとは、眞とに喜ばしひとであります。然し、今日奉祝を旨としたる此席上にて斯く公けに述べまするとは、決して演說と申すべきものでありますまい。吾々遙かに宮城を望み、恭やしく御前に蹲踞いたし、滿腔熱情の祝志を謹しみて申上ぐるの心地を感じ居りまする折柄なれば、私の演說なるものも亦一の祝辭であります。私は、先づ吾が祝意を述べます。諸君は御銘々溢るゝが如き感情あらせらるゝとならん。私は、代表して私一己の祝意を述べまするに付ては、諸君は、演說を聞と思はれず、之に連想して御銘々の感情を一層引起され、暫くの間た、お互ひに、謹嚴に、今日の大典について考えた

く存じまする。之れが、此の席に於て演說を催ふすとの適當なる主旨であると信じます。元來、

祝すると申すとは、

己を忘れて、他の幸福を慶こぶとで、人の美くしき至情であります。熱心、祝意を表するときは、殆んど我を忘れます。苟くも、我なき、美しき至情あるものならでは、滿腔の祝意を表するとは出來ません。況んや、上にあるものに對して、祝意を表すると云ふは、正しき權威に服從し、忠順奉公の念ひに滿ちて、心の誠を盡すとであります。吾等、こゝに、端莊聖嚴なる思ひをさゝげて、此の大典を祝賀し奉つらんといたします。一躰

服從と獨立

とは、並び立つべき大切なる覺悟でありまして、人は、必らず此の二つを兼備せねばなりません。頭上に正しき權威を感じて、其制裁の下に謹しんで服從するものにあらねば、自由と云ふものゝ眞の味はひを覺るとは出來ません。自由と云へば、天上天下、唯我放埒の事なるかの如く考がえ、毫も制裁なきものゝ如く思ふものは、人情の極致を知らぬものです。

人は、絕對的に空漠として存するものでなく、必らずや、頂だくべく、守るべく、履むべく、歩むべき、威嚴ある一物の下に服從し、其制裁を感ずるの區域内に於て、逍遙遊するものでありまして、此の區域内の逍遙遊を自由と云ふのであります。左れば、自由なるものは、無制裁の意味ではなく、服從して而して平和を感ずるの主旨であります。眞理は、汝に自由を得させ、道に從がつて後ち心自から自由なるは、此故です。彼の、學校の、

紀律をも重んぜざる女學生

が、眞の獨立を爲すとは六かしいです。又、八釜しく騷ぎ廻る氣儘の政論家には、自由の眞趣味は分りにくいと思はれます。我國今日の時弊は、服從の德なきことゝ眞の自由を知らぬとで、大率ね、我儘を以て自由とし、服從を以て卑屈と心得て居る人が多くあります。たゞ茲に、

威嚴ある　帝室のありて

彼等が我儘放埒の極端に走らんとするを引止め、之に忠順服從の德を訓化せらるゝは、感謝すべきとです。此の無制裁なる國民の頭上に、もし尊嚴なる　皇室のなかりせば、如何に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

放埒に、如何に亂暴になりゆくとやらん。之を思ふときは、國民は、知らざる間に、　帝の德に薰化せられ、　皇室の威嚴によつて、敎練せられて居るのであります。抑そも、

　歷史を同ふし、言語を同ふし

利害を同ふし、土地を同ふし、法令を同ふし、希望を同ふする所ろの吾等大日本國民の同胞は、一の國民として、天より重大なる使命を與へられて居ります。東洋の一端に獨立し、亞細亞全洲の日出る所ろに位ひしたる我日本は、一國民として、明白なる聖嚴なる天職を負ふて居ります。過去を思ひ、現在を想ふに、此の天職使命の在る所ろは、眞とに確實であります。即はち、古へより、

　新らしきとを好み、新らしきとに聽く

速やかに批評し、速やかに消化し、速やかに適用し、速やかに宣布するとを得る所ろの我日本國民が、今日の東洋諸國に率先しつゝある使命は、明らかであります。二十世紀は、東方問題の世紀でありませうが、此世紀に當りて、亞細亞全洲を警醒し、敎導し、引率し、發揮せしむる所のものは、必らずや、我が日本國民であります。半ば亡びたる民や、既に獨立を失ひたる民や、眠れる民や、頑固極まれる民は、決して此の天命を聞くとを得ません。我日本國民にして此の御用を承はるとを得ずんば、亞細亞洲の前途は決して長くありません、其獨立は疑はしひ、到底速かに文明の域に進むとは出來ません。

　我日本國民は、國民として

此の一大天職を負ふて居ります。東洋の水先案內となり、亞細亞全洲の盟主となり、傳道者となり、大將軍となるは、其本分であります。今日の時勢に居つて、此の大使命を忘れ、區々として、內輪喧嘩を爲し、些細の事に怨恨嫉怒して大事を誤まる如き人は、國民としての莊嚴なる天職を心に念ぜぬゆへであります。國民として其全躰の上に、かゝる榮えある輝れある重大なる役目を負ひ乍ら、兎角に、猜忌し、爭鬪し、分裂しがちなるは、何故ぞ。然し、もし上に　帝室なかつせば、其の分裂は、更に如何ほどでありませうか、

　此國民を統一し、訓練し、

敎導し、引率し、奬勵する所の一大偉力は、　皇室であります。皇室は、人の覺らざる間に、非常なる感化力を發射し、天

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

下の億兆を薫陶して、相ひ和らぎたる一國民たらしめ、其の天蓋の下に覆はれて、妙に結合和睦したる一大同胞の團結とならしめます。日本國民が、曾て一と度びも外國より恥辱を受けず、曾て一度も外國より侵略せられず、開闢以來、公明正大として一大帝國の獨立主權を確持して來りたるとは、上に　帝室あつて、此國民を統一し團結せしめ玉ひたるの故であります。現在、かくあるも、　帝室の威嚴あるによるです。將來、その大使命を果すにも、　帝室の威嚴あつて初めて成効しませう。吾々は、知らず覺らざる間に、歴史上の　帝室よりして、非常なる御恩を蒙むつて居ります。夫故へ、　帝室は、幾千年來、御恩を報ふべき目あてであります。開國以來、祖先以來、之に對して報ひ奉つるべき恩義は、非常のとであります。然るに、此非常の恩義は、

歴史上の關係のみでありません

今上皇帝、並びに、今上皇后陛下の御聖德は、前代未曾有の事であります。吾々、其の御仁惠に沐浴し、其の大御心を伺がひ奉れば、感激の至りに堪へません。宮内省官吏の制規により、宮中の御事は、善惡ともに民間に漏さゝるとなつて居りますれども、黑雲の間だを透して日光線が燦めき射るが如く、其の合ひ間を洩れて燿やく光により、後ろに赫々たる太陽を望見するとが出來ます。尤とも近く伺候する人々の談話感想などを取まとめて、恭やしく遙るかに、　兩陛下日々の御行作を窺がい奉れば、實に感涙にむせぶのみであります。之を承はれば、某華族、某侍從が申されし如く、兩陛下の御爲めには、如何なる事も致したく、如何なる奉公もさゝげたく感ぜぬものはなからふと信じ升。（以下、前號社説に見へしものと略ぼ相似たる事實を敍し）、凡そ、人に大切なるは、

感激獻身の情

であります。此の情煥發せしときは、匹夫も君子です。もし此情なきときは、君子も次第に下郎となりませう。感激とは、凡人が化して、聖賢達人となる一大機會であります。感激して、身を何ものにか献げてこそ、人は、利己の慾を拂ひ棄てて、公明正大の善事業を爲すものとはなります。苟そめにも、此の聖なる發情なきときは、古き水に虫の生く如く、人心に自から利己私慾の腐敗を生ずることは、免かれないもの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

であります。むかし封建時代の教育を受けたる武士の妻は、多くは、極めて潔白なる志想を持つて居りました。其の秘訣の一つは感激して身を他に献げたるの故です。世には女の多くあるものを、中に就きて、不束かなる妾はを撰み玉ひ、堂々たる大丈夫の一身を我に許し玉ひ、其の御心を我に開き玉ひ、取るに足らぬ妾はを以て妻と定め玉ひしは、如何なる御愛情ぞと。此の恩に感激して、一身を其の良人に献ぐれば、妾が身はもはや妾が身にはあらず。此のハダ、此の身、何人をして一指をも觸れしむべからず。妾が全身は良人の有なりと感じて、玆に五躰八腑を其良人に献ぐれば、妻たる人の一身はすでに私有物でありません。既に吾が身の吾が私有たらざるを感得すれば、潔白犠牲の情自づからにして生ずるもので、古への烈女賢婦に潔よき精神の多かりし一理由は、確かに、此の感激献身の故であります。吾等は、既に、歴史上千古の大恩を崇むり、今亦現に、忝じけなき聖恩に沐浴し、

海山無量の大御心を伺がひ奉まつる
　感泣の涙禁じがたし

如何にして、奉公殉忠の真心を露はし申すべきか。たゞ、能く道を守り、務を盡し、義勇、公に奉じ、緩急、國事に悉くし奉らんが、此の大恩に報ずるの所以ならんと信じまする。抑そも、両陛下、日夜、大御心を休め玉ふの時とては、寸時もなし。明治元年十二月、極めて質素なる御儀式を以て、大婚を舉げさせ玉ひしより、二十五年の間だ、邦内事多く、一日として叡慮をやすんじ玉ひしとあらせられじ。只希はくば、今日、大婚二十五年の御祝日に當りては、切めては、此の一日を、御安らかに、御心置なく、御睦まじく過ごさせられんことを、恭やしく切望いたしまする。廿五年前、天下草創の御時とは異なり、南北太平、東西和服、率土の濱、津々浦々、家ごとに國旗をかゝげて、斯の如く御慶事を祝し奉つる、此の有様を御覧ぜられ、切めては、御心、幾分にても、御慰さめを得させられんことを、希がひ奉まつる。（下略）。

〰〰〰

かしがまし野もせにすだく虫の音よ
我だに物をいはでこそ思へ。

如何にせん都の春もおしけれど、
なれしあづまの花やちるらん。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

兒藍

たんぽぽ

しづ子

此頃の春風に誘ひ出された母と娘二人の一群、若草もえ初むる野邊に摘物もやとそゞろ歩きする樣子で、一人の娘、

アレ、嫁菜はまだこんなに小さいんだもの、摘めもなにもしやしないわ、

といへば、他の一人答へて、

本當に、さうねへ、こんな小さくつては、お嫁にもなれないこと、ヲホヽヽヽヽ

マア、一寸、御覽なさいよ、みいちやん、たんぽがたつた一ツ咲いて升たから、可愛いじや有ませんか、日あたりが好處だもんだから、魁したんですチ、

オヤ、さうねへ、たんとないから、なほと可愛いんですよ。花で思ひ出したけれど、あたしおばあさんに約束したヿがあるの、

何の約束？

アノチ、お友だちなんかの噂しずに、花だの木だの、人間外のもの丶話しを其代りにするつていふヿ。一週間丈試して見升つていつたけれど、何だかつまらないは。あの方が此方のヿを、かふいつて居らつしたとか、あの方の着物や、結髮の風がこんなだつたといふヿもいへないんですもの、お互に賞あふヿだつて出來ませんよ、さうなると、面白いこともおかしいヿも、何もかもなくなつちまひ升はチー。一寸、此たんぽぽのヿにしたら、何の話し草があるでせうか？、さつちやん、どう思ふの？

ちつとはあるかも知れませんよ、おばあさんは、あたしたちが何でもない話ししてる中に、うつかり、人の迷惑になる樣な噂話しに移るヿがあるから、それで戒めて下さるんでせうよ、序にたんぽぽのヿを、おつかさんに何か話して頂かふじや有ませんか。

アレ、かあさまはまだ、向ふの方ですよ、嫁菜や、たんぽに浮されて、こんなに先へ來つちまつて、

間もなく追つきたる母、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

オヤ、さつちやんはたんぽの花見つけ升たチ、珍らしいじやないか、一寸お見せなさいよ、

サア、かあさま、………こゝいらに澤山草が有升から、今に花が澤山咲でせうチ、

エー、此草は種を蒔く便利な仕方を備へて居るから、尚と早く蔓こり升よ、

かあさま、今さつちやんと話してたんですよ、かあさまに何かたんぽの話しして頂かふと思つて、種はどふして蒔けるの?、

どふしてつて、おまえたち、見て知つておいでだらう、花が萎んで來ると、中の方がとんと、眉はけの樣にモヤ〳〵した物になるの、其眉はけがまた幾つか細かい眉はけに別れてるんで、其元には一々小さな種がついて升よ。其種が熟し切る時分には、だん〳〵と風で飛んで行つて、地面に落ると、此種の先が地にさゝる、すると、上についてる眉はけが煽つて、自然下へ埋めるといふ好工合になつて居るんですよ。

兩人同時に、

マア、好い工風になつて升とチ!

さつちやん、いつか伺つた紅葉の種のとよりかまだ奇妙チ、

さうそ、あれはたゞ飛んで行く計りでしたつけ。みいちやん、此間、たんぽつていふ字が何かの本に有つたら、大變と六ケ敷樣でしたチ、

さう〳〵、何とか「公」つていひ升たつけよ、チ、かあさま、尊さうな名チ、

蒲公英ですか、實際尊くないとも有ませんよ、アノ葉を浸し物にして食べるとは措いて、根が藥になり升もの。それからたんぽの親類のうちで、いくらも藥劑につかふ物が有升よ。

藥ぎらひのさつちやん、忽まち顏を顰め、

オヤ、嫌だと、たんぽゝの花なんて、歌に詠むから、優美一方の花かと思つたら、藥なんかにつかふですか?

それでも、さつちやん、實用と美術と一處に兼てるから、なほと好いじや有ませんか?

それはさふチ、それでもお藥といふと、モウ口が苦くなつちまふもんだから、かあさま、たんぽの親類つてば、どんな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

花？
種類はざつと九千からあり升よ、世界中一番大きな花の種族にはいつて居升もの。世界中の花の十分の一は、たんぽの御親類ですよ、

みいちやんや、あたしの知つてる中で、どんなのが有升、

第一菊さ、菊にも色〳〵有ませう、雛菊、エゾ菊、野菊、紫苑、日廻り、なぞはみんなさうですよ、中には菊の様に畏い渡りの御紋にまで用ゐられるのがあるし、さうかと思へば人に嫌がられる雑草の類も有升。

かあさま、外の國でも、矢張り、日本の菊の御紋といふ様に花を目印にするとが有升かネ？

服やなにかにつけるとは有升まいが、締つた目印の様なものは有様ですネ、あたしの知つてる中で、スコツトランドが薊と、獨逸が野菊の様ですネ、

それじやア、雑草の中で、たんぽの親類はどんなの？

いくらもあるが、虱草といふのを知つておいでだらう、

アレツ、あの着物なんかへくつゝいて仕方のない嫌な〳〵草？たんぽも随分外聞のわるい親類を持つて升ネ？

野菜の中にも澤山あり升よ、胡蘿蔔、午蒡、チシヤ、朝鮮薊、新菊なにかはみんなさうです。お化粧につかふ紅も矢張り、此種類の薊に似た花から取るんですし、薬品になるのも、わたしの知つてる丈で五六種有升よ、蚤とり薬で、此花の類から製すのも有るさうです。

みいちやん、御親類でも美しい菊と、午蒡の花なんと、較つこにもなるもなりませんネ、それから、あの可愛らしい雛菊と、あんな日廻りなんか下司ばり切つた花と一處にしちや、ほんとに可哀さうですわ。

なに、手入のしよふによつては随分美事にもなるし、同じ種類でも野放しに打やつて置けば、見すぼらしいものにもなるんですよ、たゞ花の組たて丈で區別が出來てるんです。第一、花が一元からいくつも出て居るといふと、第二に、花の株が周圍に青葉をつけて居るといふと、第三に、花の瓣の數と雌蕊の數が同じといふと、第四に雌蕊が頭の方でみんな一ツに附着て居るといふとです、

かあさま、此種類の花は草花許りですか？

いゝへ、南アメリカへ行くと、灌木になつて升し、ナポレ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

オンの流された島あたりでは木になつてるさうですよ、
併し、何はさてをき、菊ほど立派な花はないでせう。
かあ様夫が日本の產物だといふんだから、威張れ升す、
それはそうとモウ、少し寒い風が吹いて來るから、ソロ〳〵
歸るとしませうよ、さつちやんも、サア、みいちやんも先へ
入つしやい。
母の心づけに先へかけ出す二人の娘、イソ〳〵聲に、
矢張り、たんぽゝで結構な話しが出來て子、
それでも、かあさまが居らつしやらなかつたら、どふだつ
たか、

右につきて敎訓

一 人間の噂は人間の迷惑になると知し、謹むべし、草木、山川其他、眼に見、耳に聞く天然の事物に付て噂したりとて、誰の迷惑にもなるとなし。

二 學校にて習ひ得たるを平常互に話しすれば、學課を復習する効ありて、いよ〳〵知識ある人となるべし。

三 知らぬとは何にまれ、父母、先生等に尋ぬべし、悦んで敎へ玉はん。

文しらべ

白河樂翁公の婦女訓(中)

無名子

「古しへ婦人子を姙みては、立居も正しくし、食も物もたゞしからねばくらはず、すべて露ほども邪なる事にふれず候へば、其生るゝ子、かたち端正にして、才も人にまさることなり、さて夫よりめのとを擇みて、善に導き惡に入らざる樣にそだて申候事にて候」

之れ今日の所謂、胎內敎育と稱するものにして、支那にては、古より此の如き思想發達したりき。遺傳の學理、愈〳〵明かになりたらんには、是等の事に注意するもの多きに至るべし。今日と雖も、姙娠中の、種々の作法をいふものあると雖も多くは外面に關することにして、精神思想の嚴正、靈性の培養に注意するもの少なきは嘆ずべし。

「始もしるしゝ如く、女は學問とても、男とは大にたがひ候、たゞ四書小學など宜しくわきまへ候はゞ、姫かゞみ、假名烈女傳

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

の如きふみ、より〳〵心をとめてみるべく候、かつ古き記録などもみようにより、行ひにたよりあり候故、しかるべく候、只源語、勢語の類ひは甚淫亂なることををしへ申し候やうなる事にて、行ひにはなりがたく候、しかし、しいてふせぎみざるは、俗に背くにて候間、心さへ定り候はゞ、かの文などみるも風流なる事に候はむ。」

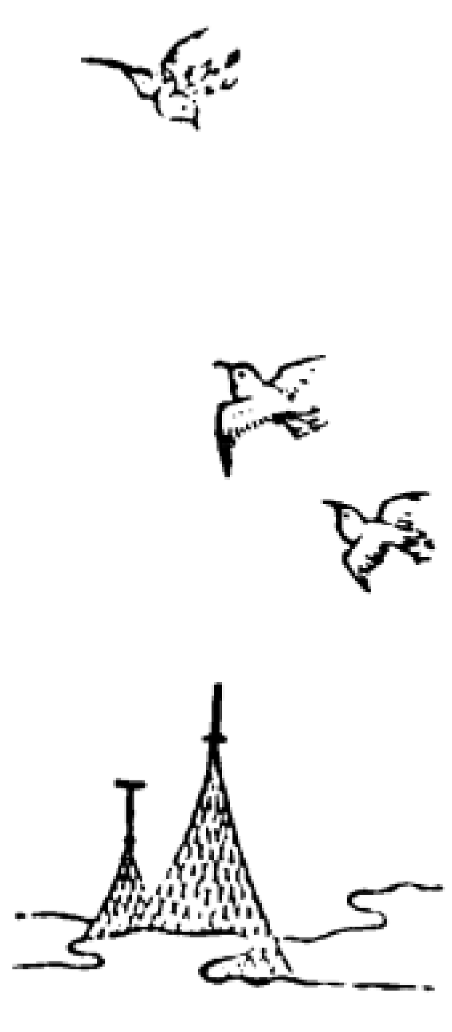
公は人の性、もと善なりと信ぜり。此性は七情の起るにしたがひ、萬づの物にさそはれて、つひに本質を失ふとなり。

「女は博學になり不レ申候宜敷候が、此性にかへる所は、是非行ひ不レ申候はではならぬ事に候、私の欲を去り、性の善にかへるは、また學文によるべくと存候」といへり。之れ公が十九歳のときに觀ぜしものなるが、二十五歳のときに至りては、女の愚なるが却て賢なるにて、學問などは心得ぬ方よろしといへるは、世の中の弊害に悟りてならんか、公の十九歳の折にものせし、説こそ賛すべきなれ。

又修身録と名くる一書あり、天明二年、公二十五歳の時、ものせしものなりといふ。うちに「夫婦の事」を記するものあり。曰く、

「夫婦ほど世にしたしきものはなし、然るにその別の字を以て不易の法と定むるはいかにぞや、それ夫婦は人倫の大綱にして、父子君臣もみなこれよりおこる事なり、其間したしみむつまじきが中にも、なれけがるゝ様にあらず候を別とはいふ、黄門公に別の義を伺ひ候とき仰せに、婚禮の後朝おき出しとき、何となくつゝましくはぢかはしき心底有レ之候、この心根を始終失ひ不レ申候が別なりと仰せられ候由、古今の名教なりとしるべし。」

黄門公の夫婦別あるの説明、微にして妙、げに千金のおもみあるといふべし。此の如き妙味は、聖愛至戀より來るべきものにして、邪淫を行ふものゝ得て知るべからざる妙地なり。夫妻相親しき間に此別を存せば、亂れんと欲するも、亂るゝ能はざるなり。今日かゝる心得ある夫妻を見ること稀有に至りしは、實に慨嘆すべき現象あらずや。



史傳

英國女皇陛下の御情交（下）

初めて心置なき御物語

恙がなく、目出度、鳳縁を結ばせ玉へり。御新ひ枕のあけのあした、御眼感涙にうるはせ玉ひ、龍顏ことにうるはしく、公を信じ、公に頼らせ玉ふ御姿、拜し奉るだに心地清々しき事にてありしと、御つきの典侍レヂー、リツテルトンは申しき。又、陛下が、右の典侍に語り玉まひし御趣きによれば、從來、曾てなき新らしき一つの御滿足を得させ玉へり。即はち普段、たゞ御一人、大御心をなやませ、人知れず宸襟をいためて何人にも語り玉はざりし秘事を、此時よりして打語らふべき友を得玉ひ、初めて心置なき御物語の出來るとこなりしと、即はち是れなり。

草の屋の老婆

御二人、折々のそゞろありきに、日夜民を懷ふ御愛ひを、掃らはせ玉ふ。殊に、天長節の御いはひ日には、クラレモントの御離宮に、公と共に閑靜に一日を送り玉へり。わざと扈從を遣し、たゞ御二方、世の常の狀して、田野の間だを遊び玉ひし折柄、一村雨、にはかに降るにあひ玉ふて、名も知れぬ老婆が住ふあやしげの草屋に避け玉ひしに、老婆は、貴顯の御方とは知らず、平易に御もてなしゝて、昔し離宮のほとりにて拜し奉りたる若見さまなどの御うわさを申し上ぐ。雨尙ほ止まざればとて、此の御二方に傘を貸し、特にアルバート公に固く注意して、必らず何日までに御返しあるべしと嚴約せしが、此の雨傘に謝へて結構の御賜物を下されし日まで、彼の珍客が雲の上のあて人なりとは、夢にも知らざりける。

ともに朗吟し玉ふ

アルバート公は、音樂美術を好ませられ、取分け、ヲーガンは御上手なり。或る夕べ、公、親からヲーガンを彈ぜられ、陛下と共に靜かに歌を朗吟せらるるとなどあり。

日々御行事

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

日々の御行作を伺ふに、毎朝九時、御二方にて朝餐を召し上り、其後暫時、相伴ふて御散歩あり。ロンドンにては、バッツキンハム宮の御園内にて散歩せらるるを常とす。此園内には、幾多の家畜、水鳥などを飼はせられ、よく公に慣れて、其の御慰さみを助けたり。御散歩後は、日々の政務を聴かせられ、又拝謁を請ふものに許し玉ふ。午後二時、又御二方にて午飯を召し上る。午後は、ロードメルボルン御前に伺候す。五時六時の頃に至れば、公自から御して、小馬の車を驅り、陛下同乘し玉ふ。公が御し玉はぬときは、御生母ケント侯爵夫人、又は其他の典侍陪乘仰せ付らる。而して、公は、大抵日々、陛下の爲めに、何ものをか朗讀して聞かしめ參らず。夜八時には、御夜食あり、陪食仰せ付らるるもの多し。

御產殿の介抱

年の十一月、皇女御降誕の準備一と方ならず、御產殿には、御母ケント侯爵夫人、アルバート公、侍醫、產婆ソリー夫人などあり。扨て、恙がなく御產あり、御引こもりの間だは、うす暗き御產室の内にて、公は、陛下の爲めに書を讀み、文を認ためらる。又、御寢よりうつしてソーファに載せ參らす時、又は次の御居間にうつし參らす折など、たゞ公御一人の手にて便じ、何ものの手をも用ひられず。たとひ宮中遠き方に居ますとも、御知らせあれば、直ちに來つて斯く介抱せらる。其の御信切、其御やさしさ、生みの母の如く、又、如何に聰明の看護婦なりとも、之に及ぶべからずとは見へき。

書架

御垣の下草を讀む

稅所敦子が歌(上)

敦子の刀自が歌に妙えなるよしは、かねて聞及びたれど、近頃其が家集を讀みて、今更の如く驚ろかれ、手を放たずして二つの卷を一覽し了んぬ。

士流の婦女子にして掌侍以上にあるは、此刀自のみとかや、之をすゝめたる知己高崎正風氏は、御歌所長の格をもて此書にはしがきしたる中に言へらく、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

權掌侍税所敦子の刀自はもと林氏にて文政八年といふとし京都鴨河のひんがし錦織の里にうまれ幼き時より歌をよみ文をかきよにめではやされき十八の年に父を失ひ廿にして薩摩の殿人税所氏にとつぎ廿八にて良人におくれあくるとし鹿兒島にくだり姑につかへて孝養をつくされしに贈大納言殿その才徳を聞たまひてぬきいでゝ若君のかしつきとなされしかばよるひる心を盡し守り立られしに其かひなく俄にみまかり給ひければ同し道にもと思ひなげかれしを心にもえまかせず又家にかへりて姑につかふるとはじめの如し其後前左大臣殿のひめ君近衛殿に御入輿の時つけられて都にのぼり久しき年月をひとひの如くつかへられしに明治八季の秋　皇后宮の内侍にめされたりさて立居ふるまひより物うちいふまですべてなよ竹のなよやかなる中にたゆまぬ操備りてようい深きとは古の紫式部のながれなるべしされば若きほどより今の齢にいたるまで露ばかりもあだなる名うきたる聞えなく世にめづらしき婦徳をそなへられたるがうへにさえのきはゝた男はづかしきまでになんありけるおのれこの刀自とはやくより歌のうへのむつびあさからず二なき友とたのみしもまとは君を思ひ國をおもふひとすぢの眞心のうちあへるによりて也けりひと日刀自のいはるゝやう年比よみおける歌ども宮仕のいとまに書あつめ置つれば板にゑりて子孫のすゑにも殘しかつは親しき人々にもわかたばやと思ひ侍るを世にふらんほどにはいかゞなどいふ人なきにしもあらねど老のつれ／＼なぐさむるまでのすさびなればそれにはかゝはらでなんものしつる近ごろかうやうの物にはかならず何の宮の題字くれの大臣の叙文などこひて其書のひかりをそふるが多かれどおのれはさる望みも侍らず唯君はこゝろしりの友におはすれば卷のはじめにひとことそへたまひてよといはるゝにとしごろのまじらひをおもへばいなむべくもあらず一わたりよみゝるに歌のさまさまおほよそいにしへのまとのむねにかなひそのひとゝなり常の心おきてまでもはかりしられてあなめでたあなゆかしとうち思はるゝに云々

刀自が經歴と人と爲りと、之によりて明らかに知らる。今ま玉を貫ぬきたらんが如き二卷のうちより、わづかばかりを手に取りて見るに

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

文藝

同訓異義（五）

タ

タヾ

徒 空同、事あつて人のところへいて其人るすにてむなしくすてゝかへる事

維 もつぱらなる意、惟唯並同从レ心者は心もつぱら也

啻 翅と同一字用ることなし不レ啻何啻と用て一句の意をふくむ字なり

止 までと云氣味、而已の字を用と同

但 たゞしと訓す、ものを云に二つにわかる始において少しうたがふ意あり

只 語をおこすところに用又語のおはるにも用

タヽク

叩 首を地につける事、氣をつけ引をこす事、さゝふ事

敲 たゝき至る事｜レ門

欵 たゝき入る意味｜レ門｜レ塞是也

皷 たゝいて音をはづます氣味

タノム

憑 人にもたれかゝる氣味

怙 まさかのときはかうとあてにしてをる氣味、父亡日失レ｜

負 背にものを付てもつ事已にありとする事

頼 うしろだてにする事たよりに思ふ事

恃 同上母死日レ失レ｜

倚 たよりに思ひよりかゝる事

タヾス

正 まむきになをす事

糾 もと縄を三つぐりによる事奉行目付のものを吟味する事

規 法を以て人をたゞす事

貞 内に守りありてくづれみだれぬ事、德を以云ふ

訂 書物のあやまりなどを吟味しきはめ定める事

質 その人を定木にしてたゞす事かんがへさだむる事

タットブ

宗 それを正統としたつとぶ事流派の出づるところを云

尚 うへにしたつとぶ事人のこれをよき事となもいいる事

尊 上にすへて尊敬する事

崇 上としあがめあしろふ事たかき事

上 うへとしあしろふ事

貴 上品のものとする事位の高き事

タヲル

僨 くつがへりたをる事こけたをる事

仆 頭の方が地につくを云

殪 さしたをす事ころしたをす事

躓 つまづきたをる事

倒 上が下のところになる事さかさまになる事

偃 たをれものゝ事たをれそれがへる氣味

踣 立ちあがらずしてこける事つまつきたをる事

斃 氣つきて死てしまふ事

タスク

佐 身を入てたすける事

扶 たすけてこかさぬやうにする事

介 中に居てもつ氣味たすくる事

助 たすけてそこまでとゞかす事さり合てたよりにする事

弼 弼同のきはなれずに法を以たすけゆく事

祐 たすけてそむかせぬ事

輔 ひかえとなつてこかさぬやうにしてゆく事

亮 たすけみちびく事、正面のすはりをつけてたすくる事

資 それがもとでとしてもてゆく氣味

相 その手引となつてみちびきたすける事

タノシム

樂 物に化せられて心ののびる事心發散在レ物

愉 氣をかへてたのしむ意多連綿字に用

嬉 心のうき立やうにたのしき事

愷 軍に勝て心に氣味よく思ふ事

娛 なぐさむともなぐさみともよむなぐさみたのしむ事両方にかゝる字なり

熙 和樂の義なりさきのつゝきてひろき事

タヘル

耐 ｜レ久｜レ寒、それをうけてじつとこたへる事

勝 向のものとはり合てどこまでもゆく氣味

禁 とめ制してさきへやらぬ事

堪 向から來るもなほじつとうけとめてこたへおゝせる事

任 うけてせなかに荷ふ事

能 何事も見事にする事

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

チ

チカシ

近 彼此の間の遠からぬ事
比 したしみちかつく事 をしならぶ事
庶 それに及はんことをねがふ事— 幾ともつゞく
殆 すでにあぶなき事 そのきはになりたる事
邇 遐の反こちらへよつてちかき事
幾 もちつとで手のとゞきそうにおもはるゝ事
親 ちかしとはよます、ちかつくとよむ人にちかつきしたしむ事
濱 その場所にちかき事

チリバム

鏤 毛ぼりをする事
彫 ほりものをする事
鋟 板などにほりつける事

チカフ

盟 互に血判してゆくすへかはるまじと神かけてちかひかためる事
誓 ゆくすへかはらじと誓言を立る事
失 ゆくすへきはめてその心をかへぬ事

ツ

ツヽシム

慎 氣を付て物をそまつにせぬ事
謹 氣をつけてそれを大事にかける事
虔 つゝしむ事
恂 かたのとほりをたがはぬやうにきびしくまもりゆく事
欽 心にをそれつゝしみよく身を持つ事

ツトム

力 精神の及ふところにちから一杯精出し氣張る事
勉 强同、精力を出してしてゆく事
勵 力をはげまし氣を引立る事
勤 精を出してそのことをする事
努 精を入て氣張事
勞 骨ををりつとめる事
勱 精をはげましその所へもちてみゆく事
勥 むりに力を出してつとむる事
勴 その事について人をいさめつとめしめる事
孜 たへずつとめてやまざる事
劾 きめてみてつとむ事
勖 たへず其事にかゝりつとめる事
務 力をそのことに入てつとむる事
亹 つとめてうまざるの意

ツ子

常 なにのめづらしきこともなくいつも同し拍子になつてゆく事
庸 平常不易の意あり
毎 つねとよむは的訓にあらず毎レ日毎レ人とよむ
恒 平生の義 常久の義
經 常久不易の義
甞 常と同かつてとよむ

ツラナル

連 糸のはへたるやうにつゞきてたへぬ事
聯 連同だん〱つゞきに、たへぬ事
迤 邐同なゝめになつてつゞきたる事
列 つらをそろへならふ事 次第を立ならぶる事

ツグ

續 斷の反たへはなれたるものをつき合せてつゞける事
紹 その家をつぎその業をつぐ事
給 あまれるものを足らぬ所へ持行てつぎたす事
接 こちらのものを持行向のものゝ中へましへてつきあはす事
次 物のつぎ〱になつてゆく事 諸の字と意ことなり
繼 そのあとをつきつゞけてゆく事
纘 遠くたへたるをこしらいてゆく事
緝 兩方からよせてつぎ合す事
嗣 その世をつきあとをつぐ事
亜 そのつぎになる事

ツク

突 ついて向へいる事
撞 かねなどにつきあてる事
搗 擣同つきつくす事
衝 つきあてたをすきみつきくづす事
搶 向へつきこむ事
舂 臼にいれてつく事

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

論説

男女間の詩趣

上野南城

ユーゴ謡ふて曰く「戀は花鳥風月を使者に使ふ」と、花鳥風月は吾人の詩趣を養ふ楔子なり。冷酸木強、曾て風流を解せざるの人も、一度び花鳥風月に對せば、一種美妙なる情趣を湧起して、心に無韻の詩を謡ふ。花に啼く鶯、水に棲む蛙の聲を聽けば、いきとし活けるもの、いづれか歌を讀まざりけるとは、此寸間に感じたる美妙の觀念を謂ふなり。此の美妙の觀念の、男女間に發揮せられたるものを指して、戀とは謂ふなり。

戀は美妙なる詩歌なり。吾が情緒の一縷が、彼女の銀釵の端に繋るや、一聯の詩句は作られたり。吾心の美妙と、彼女の心の美妙とが串珠せられて、互に綢繆の情思を感ずるや、冷眼に看し此の天地、忽ち一變して人情平和の社會と爲り、吾が乾燥して光澤なかりし心靈界、忽ち洋々たる和氣を吹かし來る。昨日の我は名殘なく消えて、新たる今日の我を樂むに至るべし。斯て花鳥風月は吾が爲めに多情なる使者となり、數々吾と彼女の間を親和して、樂しき春愁を結ばしむるなり。嗟呼戀愛初發の時期は、吾が爲めに天地の闢けたる時なり。凍れる如き科學的の腦界に、神韻縹緲たる詩歌の才量を加味せし時なり。

意中の秘密は、常に思想最奥の聖殿に閉籠りて、容易に其顔を現はさず。春雲の微月を掠むる如く、朦朧として分明ならず。之を舌に載せ語らんとして語られず。之を筆に載せ描かんとして描く能はざるが常なり。然れども一たび「戀」の秘密を宿すや、家に珍客を宿したる如く、和氣おのづから現はれ來り、悲哀を吹く景物も、吾が爲めの慰樂者と化す。佳人春を思ふ時、其の顏容に時ならぬ紅潮を點し來るとあるは、僅かに其の秘密の一端が、蟠龍尾を現はしたるのみ。而して其の秘密の鏈鎖を、一たび意中の人に投げ掛くるや、戛然たる妙音、心奥の琴絃に觸れて、一種の曲を合奏し來る、詩は實に其の樂譜なり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

何人も一度は、其の秘密の詩歌を謡はざるべからず。人生の五月と形容せられし婚嫁の時は、何人も戀歌の主人公たるの時なり。人生に於て最も妬羨せらるゝ時期は、實に此の戀歌の主人公たる五月の、鳥獸孳尾の交にあらずや。

詩人の生涯を彩色せる多くの趣味ある性行中に、王たるもの二あり。一は旅行なり、一は艶福なり。此の二件は普通の詩人にも數々見るところにして、殆んど詩人の生涯を彩色せる二個の特條たり、旅行は如何に詩人の生涯を油畫的ならしめたるか、旅行は實に詩人の半身を作爲せりと謂ふも不可なき程に、多くの詩人は旅行を好みき。彼等の名ある雄篇は、大抵旅行より齎らし來れる傑品たるにあらずや。而して彼等更らに詩人の生涯に於て、吾人の數々見受る事は、いづれも一度艶福時代ありしとなり。「大華終日萬里遊。西來無處不銷魂。病中若問金錢下。秋雨秋風過灞橋」と。是れ旅行の地より意中の情人を慰めたるの吟なり。「別れにし程をはてども思ほえず、戀しきことの限なければ」と。人、他鄕にありて戀人の口より斯る斷腸の句を寄せらる。風笛長亭、羇旅の情懷に卒倒せざらんや、靑春の詩人と華年の才媛、上帝は多情にも、不思議にも、偶然相見て慇懃を語らしむ。此の美妙なる詩歌的の消息は、傍人の漫りに解するを容さず。

「戀せずは人は心もなからまじ物の哀はこれよりぞ知る」とは、俊成の句にあらずや。シルレルのカルロッテーに遇ふや、如何に其の情緒を惱殺せしめたる。眼底に潛める冷味の涙は、邂逅の初に送られし秋波に化せられて、温味ある涙と變せり。梁川星巖の紅蘭に於ける旅する時は相伴ひ、食する時は相向ひ、夜は「分一靑燈共讀書」の風流なる生涯を作せり。彼等は傍人の艶羨する燒點に身を置きて、愛の詩趣を養ひつゝ、快感湧くが如き中より、美妙の品題を得來れり。

陌頭楊柳逐春期。　歳々紅塵足別離。
漫謝閒人傳好語。　今年相見李花時。

彼等の生活、一に何ぞ多福なるや。渠等の家庭を想像すれば、情人の膝を枕に、微吟淺酌するの狀、浮動せずんばあらず。蓋し詩歌は、自然が天地の景色を靜め和らぐる如く、同化力を以て兩極の物を一致せしむ。硬性の宇宙が腥さき風に滿さるゝ時にも、軟性の天地には落花流水の心あり。此の遠くて近き兩性を融化して、親和せしむるの力を有せり。戀は異に

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

詩歌的の神力なり。古歌に「思ふてふ言の葉のみや秋をへて色もかはらぬ物にはあるらん」只一の「思」字、是れ千萬無量の詩歌の發現點なり。

我邦の詩界は、太だ戀愛の詩人に富めり。萬葉集の相聞、古今集の戀歌は、我邦の詩界を三分して、幾と其二を有つ。假し其の二に當らざるも、蓋し其半面を支配する地位を有せり。後來幾多の戀愛詩は、萬葉、古今の二大集に基きて、發育せるを見れば、此の二大集は、取も直さず我邦詩界の主權を握れりと謂ふも不可ならず。故に若し我邦の歌集よりして、戀歌を除き去らば、其の七八を減ずるや必然、而かも男女間の詩趣を冷酸ならしめたると、幾許なりしかを知る可らず。男女間の詩趣は、人情の醇味を社會の各部に注ぎ、平和の要素を人類相互に分ち、人々と相笑ひ、家々と相親み、野暴なる人心の調和、健全なる品性の發達、美術を愛する高貴の觀念、職分と結合とを貴ぶの精神等は、政治法律の制裁を待たずして、自然に發生し來る善き結果を收めむ。然れども男女間の詩趣は、時に汚濁す。其の一旦濁汚するや、淫蕩、腐敗、文弱、放逸の空氣を、社會に滿たしむるの惡果を見るとなきにあらず。即ち戀歌が萬葉、古今以後の詩人に依りて、如何に我社會を柔弱ならしめたる。是れ答ふまでもなき、平安朝以下、室町時代、江戸時代の社會に徵せば、其の時代に作爲せられたる歌集が、如何に輕薄なる感情を注入せしかを知るに餘あらむ、彼等の中には意中の人なきに、愛慕の句を作りて、得々其の巧拙を爭ふものありき。

要するに、男女間に詩趣の發生するは、男女間に高等の教育を與ふるものなり。純美なる自然の性情の開發するの時なり。樂んで淫せず、哀で傷らず。圓滿至善なる感化力は、實に此の中より流露し來る。人生の樂むべき幸福の門戸は新婚の夕より開かるゝなり。

〰〰〰〰〰〰〰〰

○蝶夢集(西山公の侍女)をよむに、　(かすみ)

求むとて何かはかなふ世の中に、
　待ちならひけん、われぞはかなき。
露むすぶ草の庵のかりの世に、
　しばしの夢は、なげかざらなん。
小夜衣、なにかさねけん、しのゝめの
　あくるわびしき、名殘おもへば。
あはれとも誰にかたらん山里に、
　ひとりながむる、花の下かげ。

片々

○府下同盟女學校連合祝式

去る九日、第廿五春大典奉祝の當日、東京府下同盟各女學校は、連合祝式を催ふさんとて、午前九時半麴町區女子學院内に集會したり。矢島かぢ子、會を主どり、高津栢樹氏が撰にかゝる奉祝の歌朗誦せられ、女子獨立學校の生徒祝文を讀み上げなどして、十一時式を了り、後ち茶菓の饗應ありき。

○久成法師

と題する「日本人」の一文に云く、法師頃日海外布敎の一名策を案出して思へらく、品行方正の婦人十五名を撰へて米國に赴き、豪富の家に奉公せしめて、日本婦人の美德を示し、依て以て佛敎擴張の手段に充てんと。蓋し、法師、シカゴに遊んで、米國女權の盛なるに愕ろき、遂に日本婦人輸出策を立つ。

○關西女子敎育會

關西同盟の女學校は、關西女子敎育會なるものを組織し、每年一回春期に於て會合を催ふすとあるが、本年は來四月三日西京同志社女學校に於て開會すべしと云ふ。

海外女報

○シ、レ島に於る婦人の社會黨

下情困難の爲め、同地に於ける社會黨は非常に騷がしきとは、兼て聞く所なるが、今また報ずる所によれば、就中婦人の暴行振も甚しき由、饑渴に迫まるが爲なるべしといふ。

○スウィデン國なる婦人の法學博士

同國王オスカル陛下の許可を得て、學號請求中の由、該國にては此婦人を嚆矢とす、名はフローケン、エルサ、エスチェルセン。

○英國殖民協會の婦人演說

同會は二十六年前の設立なれど、婦人の演說するは今回が始めてなり。ミス、シヤウはタイムス新聞の特別通信委員として、南アフリカ、並にヲーストラリヤ内國を旅行せり。

○知己ならぬ婦人をキスして罪なし

往來にて年若き婦人を捕へ、戲れし男子は訴へられたり、然

して男子は放免さる。接吻は親愛のしるしなれば罪なしとの宣告にて。法廷はアムスタルダムの控訴院。

○授産婦人千九百三十、

紐育に於る基督教婦人會は其職業部の成功格別去年に著しかりし由也。彫刻部に廿五人の卒業生ありたるが、同技術は婦人の嘗て試みたることなきもの也といふ。

○倫頓なる婦人救助會、

暗黒都府に墮落婦人を捜索して、救護するとこれ同會の事業なるが。三十六年以前設立せられたるより今年まで同會員夜な〳〵の心づくしは筆紙の及ぶ所に非ずと雖も、汚毒の中より救ひ上たる人數をいへば、實に二万五千百二十一に及び、彼等はかくて恐ろ敷魔界を離れ各正當なる事業につき、或は正しき家に奉公住したりと。

○眞の勇婦、

客歳シベリヤ國なる癩病村に率先して趣かれたるケート、マーステン嬢は一度本國英吉利へ歸り、今回再び彼の地へ向かはるゝに當り、女王ヴィクトリヤ陛下には殊に親書を賜はりて、女性にして遠隔の僻地に獨旅せんとする同嬢に途次充分の補助を與へ呉れられよとて懇ろに紹介し玉へり。マーステン嬢は去月の報告によれば、既にセント、ピテルスボルグに着し、皇女某の接待を辱ふせられたる由なり。

○英國の文人世界、

英國の文人世界は五千百十一の男性に對して、六百六十の女性ありとぞ。

○露國の退歩、

女性受産法彌進歩する今日に於て、露國は何等の理由あるにや、鐵道附屬の電信局にこれま雇ひありし婦人を悉く解雇し、男子を以て之に代へたりと。

○有名なるベサント夫人、

去月三日のボンベー、ガーヂアン雜誌に、神秘教熱信家とし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

て有名なるベサント夫人の印度へ渡來せしとを報じて云く、夫人は目今印度人中の印度人として、新たに「アナバイ」と改名せられたる由。夫人近頃バンガロアに演說して曰く、妾前世には印度に生れ、印度敎の信者なりしが、今日再び祖先の國に來れるなり。今世更に西洋國に形骸をとりしは、該地方に蔓延せる唯物的開明の性質を究めん爲己と、夫人近來の宗敎說なりといふを左に掲げん、

一　印度神秘敎は哲學中最上のもの。

二　印度人は全世界中最も上知の人民なり。

三　サンスクリツト語は國語中最高等のものなり。

四　西洋の開明は學術上の發明夥多なるにも係らず、印度の開明に比して取るに足らぬものなり。

五　西洋に於て凡そ秀逸なる事物は悉く印度より借用せしなり。

馬鹿氣て話しにならぬとは斯の如きことやいふなるべし、ベサント夫人は容貌優にして、辯舌も亦爽やかなる由、去とて、頭腦の痺れたる（役に立ぬ意）僕ひには足さるべし

時報

◎皇室

●観艦式の盛典　は去る九日に御擧行あり前日より雨天引續きたりしも市中各所に思ひ〳〵の飾物等あり家々國旗を飜へし夜に及んては何處にも美くしき提灯を掲け特に宮城内外は數千の瓦燈を點じて煙夜花火を打ちあげ恰も不夜城の觀あらしめたり各家國旗して祝意を傾くる抔樣々の趣好をこらし各官省各學校は休業し商店の如きも多くは閉店して賑かさ云はん方なくいともめでたき盛典にてありき

◎學校、敎育

●華族女學校の小學主務　華族女學校にては是迄學監をして全校小中學の敎授及び校中の事務を監督せしめ來りしが今般小學主務なる者を新設し專ら小學科の敎授及事務を監督せしむることゝなり學監事務心得佐野安氏之を申付けられ而して湯岡敎授は學監事務心得を命ぜられたりと

●新女子高等師範學校長　秋月新太郞氏這般女子高等師範學校の長として兼れて文部の參事官となられたり

●信州の子守敎育所　長野縣上田町の女學校内に設けある同子守養育所は設立以來日尙淺きも頗る好成績を顯はし此程卒業免狀授與式を擧行したるに其の受驗者は百廿九人の多きに達し原籍は一府七縣に亘り居れりと今同所開設以來市中に及ぼせる影響を聞くに百餘名の子守は此敎育所の爲めに素行體面を一變したるものゝ如く其多數相集る時は唱歌を爲し又は各商店の暖簾若くは看板の文字を讀むを樂とし全く卑陋なる俗謠を歌ひ又は飴賣の眞似を爲す等の弊風を一洗し今回の免狀授與式に於ける彼等の状態は其進退動作の溫雅なる良家の女子として恥かしからぬもの少からずと云ふ

●明治唱歌會　此程岡好辻則承大村恕三郞東儀季治の諸氏講師となり多忠行氏の幹事にて牛込區神樂町竹内學校内に標題の如き會を設けて月水金三曜日の夜を以て高雅善良なる音樂唱歌を敎授せる由なるが其學課を大別して本邦樂部歐洲樂部の二種とし又之を細別して各唱歌樂器の兩部とし各高等科普通科を設け各部修業期限は普通科六ヶ月高等科一ヶ年とし左の科程に依て講習すと云

本邦樂部普通科　唱歌部、雅樂理論、五聲唱歌、七聲唱歌、樂器部、雅樂理論、樂器使用法、唱歌一般、

歐洲樂部唱歌部　普通科、音樂理論、音程練習、單音唱歌、樂器部、音樂理論、樂器使用法、唱歌集一般、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

本邦樂部高等科　唱歌部、雅樂史、旋律學、教授法、高等唱歌　樂器部、雅樂史、旋律學、高等歌曲、
歐洲樂部高等科　唱歌部、旋律學、和聲學、東西音樂史、教授法　樂器部、旋律學、和聲學、東西音樂史、高等樂曲、高等唱歌

◎美談

●教育に熱心なる父母　岐阜縣惠那郡大井町大字岡瀬澤可知定吉氏は其身富有と云ふにあらねも頗る教育に熱心なる人にて昨年より姉はり(八年)妹けん(六年)の二人を大井學校へ入學せしめ通路の遠きにも拘らず昨年十月頃迄は父母交る〴〵監護して登校せしめ授業時間は教場に入り姉妹の業を受くるを見放課の時は控席に至り談話し或は復習せしめて學校の樂しく學問の貴きを知らしむるなど實に其注意周到なりしが其熱心空しからず此の程の小試驗に姉妹とも首位を占めたれば父母の喜び一方ならずと岐阜日々新聞に見ゆ

●山岡女史の賞譽　這に高知縣知事より褒賞の榮を受けたる同女史は今度京都なる西本願寺より左の如く賞與されたり

福典寺門徒　高知縣高知市樂屋敷　山岡　甚

其許儀平素父母信教の薫陶により厚く法義を愛樂し且つ資性溫厚にして最も孝順の志厚く父及び夫との病蓐に事ること數年病者歿後は最も家計困難なるにも拘はらず病母を看護し三兒を養育し且つ幼年學ふ所を以て小學校に奉職し多數の兒童を教育する等奇特の行狀不尠候に付紺紙金泥六字尊號一幅被賞與候事

●可憐貞女　鳥取縣江崎町田中元昇長屋住居の大村文治(四十)は老母(七十)と妻なか(二十六)長女五歳四人暮しなるが文治は元木引業なりしも病身にてはかばかしく仕事も出來されば益々赤貧なりしに參年前より病氣も重り床につきしかば日々のくらしもたゝず加之老母は眼しいにて子供の守さへも出來ず却てこれに手がかかり三度の食事も箸を採りてあたへねばならぬ位なるに感心なるは妻なかにてさる貧苦の中に手一つにて夫の介抱老母と乳のみ子の世話何から何迄實貞しく朝は小暗き内より起き出何もかも母と夫との不自由なき樣にと心付け粥を焚きてすゝめ置き夫より直に仕度して僅かの小間物紅白粉花かんざし等を肩にして近在を行商あるき僅少の利潤を得ては母夫の口にあふものを買求めいそ〳〵立歸りて火を點し母や夫の樣子をうかゞひすぐ米屋に行き僅の米を調へて又かゆにたき兩人にすゝめ子供に食させ自分はたべたふりして食ぬ事もありとかくする事長の年月一日の如く實に今時の薄情の世にもかゝる長屋のはしにかゝる孝貞の婦人ありと近所となりにては氣の毒がりよるもたかるもお仲の感心ばなしなりと「因伯時報」に見ゆ

●慈悲深き婦人　世には中々に惠深きものもあるものかな信濃松本町字寶光寺の大橋市五郎の妻マスが昨年九月のことなるが何用かあつて買物かてら市場に來日歸る途中襤褸に身を纏ひ年老たる女の三四歳になるやならずの小兒を先に立て路上に彷徨するを認め奈何にも不憫なる者かなとマスは二人に向ひ其の由を尋れしに本郡岡田村字原の倉科サヨなるものにて夫に死別しより家財悉く賣却なし今は生計上奈何ともなし難く親戚等もあるなれど一向世話する者もなく今は早や餓死するの外なきよし涙ながらに語りければマスは奈何にも憫然なるものと思ひ我家に引連れ寄食せしめ置たる處サヨは追々身體も衰弱し加之感冒に罹りければ醫療を加へたるも何分快方に赴くの氣色も見へず依てサヨは親戚なる岡田村倉科惣次郎方へ引取方相談に及ひたるに惣次郎は不肯さるにより不得巳マスは其儘厄介し置きたるに去年の十二月十七日遂にサヨは黃泉の客となりたれば葬送の手續をも盡し最も深切に野送りもなしたるが遺兒スヱは未た年若の事なれば到底マス方にて養育し難きを以てサヨが尤も近親なる叔父本郷村淺間區の百瀬源作方へ引取るやう本郷村役場を經て頼み出でたるにサヨとは從來親戚の緣を絕ち居る事なれば引取難きの返答にマスも迷惑し止むを得ず去る二十日松本警察署より說諭し貰ひたき旨屆け出てけりと世は樣々の人心かなと「信濃」に見ゆ

●篤行奇特者賞與數　內務省に於て調査せる一昨二十五年中の篤行奇特者賞與數は人命を救助せし者二千百四十七人、德行卓絕なる者六十七人、公衆の利益を與し成績著明なる者、五十七人公同の事務に勤勉し勞效顯著なる者五十三人、合計二千四百二十四人にして之を賞與種類に依り區別すれは褒章四十人、飾版一人、銀杯一組一人、同一箇三人、木杯一組十九人、同一箇七十六人、金員七百八十四人此賞與金額九百八十六圓、褒狀千四百七十四人、褒詞二十六人なり

◎風紀

●演劇と兒童　某氏「根室每日新聞」に書を寄せ演劇の風教上利害の關係あるを述べたりこは世巳に定論もある事なれど兒童の觀劇に就て記せる所幾何彼地の風紀を知るに便あり今其要を擧ぐ「試に見よ俳優の其技を演するや愚夫愚婦の歡心を買はんが爲め故らに猥褻の擧作をなし恬として愧ぢざるに非すや余茲に於て維新前まで河原乞食として世に擯斥せられしも亦偶然ならざるを知る獨り怪み且つ遺憾とする所は風俗取締旁臨場せし警官しかも二人の之を見て敢て咎めず愚夫愚婦の觀客と全一なる位置に立ちし事是なり頃日聞く所によれば當地小學校高等科生徒中に學業を廢し俳優とならんとの望みを起せしものありて教員は百方訓誡を加へ漸く思ひ止まらしめたりと此事果して事實なりとせば益々以て風教上之れが救治の策を講ぜざるべからず教員は其受持生徒に在學中は假令如何なる場合にも觀劇するを禁じ且つ懇に其鄙劣のものたるを諭示し彼等をして自然曉しむべきものたるを知らしむべきと父母兄姉たるものは可成觀劇嗜好の慾を制し啻に觀劇せざるのみならず小兒の前にて役者の噂狂言の如何を物語らざると」

●北海道婦人の矯風　北海道に移住する者は種族の何たるに論なく開拓使以來大ひに勸奬保護を加ゆるの厚より卒先家は所謂殷富なる者を自然掌握し土地にまれ漁場にまれ商業にまれ最も良好の適地を占有し其業を經營するより其家產を與

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

起するもの十中八九の多きに居る故に現今土地の豪富たり紳士たるものは總ての卒先家たると共に又一般良風俗を造成するの責任を荷擔せざるべからず然るに上中流社會の或部に於ては新開の當時正當の婦人に乏しきより或は娼婦となり或は藝妓となり或は娼化女となり此地に入込み來る所の婦女を擧て無已正妻と爲せるもの多きに居り其風彩行爲概ね野卑陋劣にして閨門の紊亂せるは言語同斷なり故に今にして此惡習俗を矯止し玆に良風俗を養成するにあらずんば遂に匡救し能はざるの覺域に陷らん素より是等の婦人は或は公然婬を鬻き若くは密賣婬を爲す輩の正妻となりたるものなれは身に相當の教育なきは當然と謂はざる可らず故に其一家を維持するや其貞操を堅守する能はず動もすれば其醜聞を他に洩すことあり故に彼等は一[illegible]夫に見げるを以て北海の常事となし毫も慚色なく意氣揚々得々として恰も之を自己の名譽なるかの如くに思惟し甚しきに至りては有夫姦を爲すものあるも尙當然の常事として敢て怪訝を容れず人倫の腐敗紊亂せる豈慨歎に堪ゑんや元來北海に渡航し來るもの從前は永住の目的を抱くもの稀にして金儲を爲せば所謂古への錦を飾るとの譬への如く鄕國に引上んとするの念慮常に絕へざりしが此四五年以來は移住地を以て墳墓の地と定め子孫を永住せしむるの精神鞏固となりたるを以て有識者の間には一般上下の秩序を重んじ一般の良風俗を爲さんとの感念なきにしもあらずと雖も今頓に之れを改良するの至難なるより敢て之れを唱道するものなきは吾人の甚だ遺憾とする處なり若し夫れ此惡習俗を掃蕩し去らんと欲せば現時の婦人は漸れ他に放逐せざる可らず而して相當の教育ある良婦人と新陳代謝せしめざる可らずと雖も此は到底可言不可行の事に屬す已むなくんば婦人矯風會なるものを組織して每月一回若くは二回開會し以て矯風の道を講演し婦人の確守すべき道を悟了せしむるに在り是れ或は狂瀾を既倒に廻の良策捷徑ならん乎若し今日の有樣に放任し矯風道を講ぜざらんには後進婦女の將來を過まつのみならず北海の天地は奈何なる魔界に沈淪するも未だ知る可らず實に斯の如き婦人に家政を任じ家庭の教育を爲さしむる豈危殆ならずや抑も兒童の教育は家庭と學校と相待つにあらざれば良結果を見ること難し若し家庭の教育紊亂せば惡習慣を馴致し終に其性を爲さしむるに至るは火を覩るよりも尙明かなり加之根室警察署の如き婦人矯風の點には更に意を注がざるものゝ如し見よ根室市街到處曖昧的の飲食店正業者の間に犬牙錯雜し所謂密賣婦即ち娼化なるものを抱へ置きて營業を爲し夜間に到れば店頭燈影朦朧たる所に白首の婦女佇立群を爲し往來せる男子の袖を引き喋々喃々勸誘するあれども是娼化の職なりとして誰一人の怪むものなきのみならず警察官亦知らざるものゝ如し故に此惡風俗は一年より增長し殖民地には欠く可らざるの具と爲すの觀あるに至る何故に當局者は是等の習弊を矯正するに躊躇するや既に公然たる貸座敷の許可ある以上は娼化の必要を見ざるなり宜しく速に驅除の方法を施行し婦人矯風に留意あらんと吾人の切望して止まざる所なり(根室每日新聞二月十六日)

●遊廓移轉に就ての紛擾(仙臺市)　常盤町貸座敷移轉派中已に蜂屋敷に假宅を設けて營業を始めたる者あるに拘はらず非移轉の連中は再び移轉延期當分現地にて營業の事を其筋へ請願せしに移轉派の連中をも調印せしめざれば受理し難しとの事なりし故非移轉派より交渉せし處已に蜂屋敷に許可せられたる上は斯る書面に調印し難しと拒絕したり、然るに佐澤廣元氏外百六名より該に蜂屋敷里道變換願を差出し置きしに何故か去る五日に至り今更ら變換の必要なしとて取消を申出てたりしが一方の仙臺市會にては何時にても出願する者あれば變換を許可すべしとの意見を有したりとの事なりし、夫等の事より六日勝間田知事は營業者數名を召集して懇諭せられし所ありと云ふ右の如き事情にて早晚營業者間に大衝突を來し訴訟にも及ぶべき傾向ありと「奥羽日々新聞」に見ゆ

●遊廓設置の出願　名古屋市百人町の小關勝輝手代町の松山鐵藏外八名より愛知郡千種村に遊廓設置の事を去二十八日其筋へ出願書を差出したりとぞ又々此等怪聞を報じ來る遺憾何ぞ堪えん

●貸座敷娼妓取締規則の改正　北海道廳にては今度廳令第七號及び八號を以て貸座敷娼妓取締規則並に檢黴驅黴規則を改正されたるが其主なる改正の點を擧くれば貸座敷營業者並に娼妓と共に賦金は從來の半額に減し之れと全時に從來檢黴驅黴共に官に於て施行されたるも今後は驅黴院を全廢して營業者に於て共同設置するをとし官廳に於ては只檢黴のみに改められたり左れば該營業者は新たに驅黴院設置費の負擔を生するが故に大に影響を被るが如くなれども之れと全時に前記せる如く月賦金を半減されたれば差引大なる損耗なかるべし而して斯く賦金を低減したる結果は自然彼の密賣婦者の公娼に變するもの多かるべく風俗上大に裨益する所あるべし又た札幌區を始しめ小樽、函館根室其他の町村にて從來設置しある驅黴院家屋は何れも該營業者の共有なれば今回の改正に就ても家屋新築の必要なく只醫員事務員其他の俸給と器械藥品等の費用を要するのみ尙ほ特に一驅黴院を設置するの必要なき地方にては他の病院又は醫師其他の居宅を以て黴毒治療所に充て所轄警察署の認可を得たる擔當員を置くを得べしとなり(北海道每日新聞)

正誤

●女學雜誌前號の發兌日は　銀婚式を祝さんため特に九日とせし所每週土曜日發行の規定なるが爲め印刷所にては原稿に九日發兌とあるを特更らに十日としたれば本文と相合はざるの觀ありしならんも前號は八日の夜印刷し了り九日未明に郵送したり讀者之を諒せよ

●女學雜誌第參百六十八號歌學枝折正誤

二十一丁四行目	活語圖ハ	活語畧圖ノ脫
仝行	私撰ハ	私著ノ誤
仝行	百人一首講義ノ下	一私著ノ三字ヲ脫
同七行目	詞集ハ	詞花集ノ脫
同十行目	影袋ハ	歌袋ノ誤
同十二行目	雅言便說ハ	雅言便覽ノ誤
同行	私撰ハ	私著ノ誤
同十五行目	讀古今讀後撰	續拾遺ハ共ニ續ノ誤
同十六行目	議千載ハ	續千載ノ誤
同十七行目	新讀古今勅々ハ	新續古今勅撰ノ誤
同三十一行目	狹衣物物ハ	狹衣物語ノ誤
二十二丁一行目	古昔物語二十ハ	二十一ノ脫

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

東京華族女學校學監下田歌子先生序
仝　囑托教授關根正直先生編輯
仝　囑托教授坂正臣先生編輯幷書

筆のゆきかひ

全二冊一冊　正價金廿八錢　郵税金六錢　宛

本書は多年女子教育に從事せらるゝ兩先生の編輯を請ひたる所にして文幹は古雅に過ぎず卑俗に陥らず優美にして實用を兼ねたる女子消息文の模範たり且旁ら習字の手本とも成るべき便を計り阪先生の揮毫せられたるにて姿致瀟洒として婉麗に製本亦頗る美にして上品なり

女子高等師範學校長　華族女學校長　細川潤次郎先生序文
女子高等師範校助教諭　共立女子職業學校講師　寒澤振作君著

家政の栞

全一冊　洋裝大判二百頁　正價金二十錢　郵税金六錢

本書は尤も多數なる中等社會の婦人を標準として平易に家政上の事柄を述べたるものにて其目次は總論に於て主婦の務めの貴重なる所以を論じ二章以下時間の儉約、物品の整頓、品物の時價、貯蓄、經費、手藝、物品の保存、雇人の待遇、室内の取締、家屋の構造、廢物利用等全篇十二章に分ち詳密に辨ぜし者なり良妻淑女一閲して家政上の智識を得られんことを

山田美妙齋君著

日本室内粧飾法

全一冊　正價金十五錢　郵税金六錢

品藻の優美天質の端麗は婦人の依て地歩を知る所以かの室内粧飾法の如きは大に日本婦人の注意を要すべく又其纎緻なる意匠に適せり然れども從來粧飾に關する著書あらず從て婦人の意を用ふること切ならず今美妙齋君得意の美觀的精神を以て大に室内の粧飾を述べらる純爛の錦に眩し濃艷の色に傾くの婦人諸君一度本書を繙かば清淡雅美品物の位置着色の配合花卉の姿勢等皆瞭然として明なるべく秀麗純美の趣味と健康和樂の泉源融然として溢れん

須永金三郎君著

婦女手藝法

全一冊　正價金十五錢　郵税金六錢

女子手藝の練習法を説きたる書世間其類に乏しからず然れども其多くは皆實用に適せざる飜譯物にして其完全なるに至つては世間多く其類を見ず此書は完全なる女子手藝の練習を與へん爲め實用を旨として編纂したるものにして全編を八に分ち和洋服裁縫。毛糸編物。レース。和洋料理。養蠶。紡績。織物。染物。料理。ハンカチーフ。縁縫。押繪。造花。縫取。切箝。紋切等の有益なる諸藝より茶の湯。香。投扇興。貝合。花骨牌。トランプ使用法等の諸遊藝に至るまで悉皆網羅し最後に至りて附錄として和洋の女禮式を載せたれば手藝の練習に志ある女子の爲には坐右に缺く可からざるの珍書なり

東京府高等女學校教頭永江正直君著

女子教育論

全壹册　正價金十五錢　郵税金六錢

教育の論囂々たり而して女子教育の天下の大問題となりしより久し既往二十餘年間に男子か教育上受けたる變動は頗る大なるものにして其度毎に公私の資財を徒費し夥多の學生をして方向に迷はしめたるは世人の已に知る處なり然れとも之を女子か遭遇せし境遇の變動に比すれは尚且輕少の事たるに過ぎず壓制主義を排せんとして放逸に流れ西化主義を弊ありとしては固陋に陥り曰く儒教主義曰く國粋主義一害を除きては一弊を生し一利に就かんとしては一益を失ふ取捨變更百十回にして而も女子教育の方針は猶茫乎として望洋の嘆あるを免れざる敢て怪しむに足らざるなり其故何ぞや蓋し一經驗なく責任なく竟に一個の定見なきもの〻泛言妄斷を信據するの弊害に歸せさるべからざるなり本書の如きは夐然此類に同しからずして著者か東京府高等女學校の教頭として十分の經營研究實驗の餘に成れるものなれは希くは此書に依て以て女子の教育針路を定むることを得む。

賣捌所　東京神田表神保町六番地　**女學雜誌社書店**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小林光茂君編

眞理の叢

此書は左の順序を追ふて基督教の眞理を平易明瞭に解明せる所のものにして道を求むる者には最も良好なる餘師なり

紙員百五十八頁 定價金十五錢 郵税金四錢

目次

- 神 原田助君
- 宗教の中心點 横井時雄君
- 基督教の仁愛 原野彦太郎君
- 實在的並理想的人生 小澤孫太郎君
- 希望 丹羽清太郎君
- 聖書 コーツ君
- 基督教の起原 小林光茂君
- 耶蘇基督 本多庸一君
- 聖靈 イビー君
- 安心 外山孝平君

小林光茂君

きりすと教一斑

此書は俗論囂々たる現時に最も適切なる一篇の基督教辨證論なり其目次左の如し

紙員百三十一頁 定價金十錢 郵税金貳錢

第一 基督教の起原
第二 基督教の特性
第三 基督教の感化
第四 基督教現今の大勢
第五 結論

發行所 銀座三丁目八番地 メソヂスト出版舍
賣捌所 神田表神保町六番地 女學雜誌社書店

鈴木弘恭大人講述

第五版 百人一首講義 （附錄小倉てびき）

正價金廿八錢 郵税六錢

御高評を得たる百人一首注文いよ〳〵多く第四版品切に成りたれば玆に第五版を印行し、且つ「小倉てびき」と云ふ、極めて便利の見出を添ゆ、之によりて、百人一首それ〳〵の歌の句の在り處、意味、よみ手などを直ちに見出すことを得て至極重寶なり。

透谷蟬羽著

蓬萊曲

正價八錢 郵税二錢

之れ一度最暗黑に沈淪して更に一道の明火を得たりと信ずる人の沈痛悽惻なる聲を洩らしたる書なり。三年前に上梓して未だ殘本少々あり價を減じて讀者を待つ

發賣所 東京神田表神保町 女學雜誌社書店

大月隆著

文學の調和

定價二十五錢 東京各書店發賣

（一）文學の叢淵 （一）天地（二）美（三）文學の樂園（四）人生の狀態
（二）文學の目的 （一）文學の定義（二）詩文（三）散文（四）小說
（三）文學の發達 （一）日本文學（二）支那文學（三）歐洲文學
（四）文學の調停 （一）美（二）音樂（三）義人の血涙（四）宗教

發行所 東京神田區小川町五十三番地 文學同志會出版
賣捌所 東京神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

素人料理

年中總菜の仕方

花の家胡蝶大人著

實價金廿五錢
郵税金六錢

此『年中總菜の仕方』は、既に本紙三百五拾號に於て公評せられたる如く、文章も凡ならず、卷中の料理法極めて多くして、皆な實際に適し、最とも有益なるものと信ずれば、今回弊社に於て之を廣く販賣す、世の主婦たる人の必携すべき書なり、

言語作法

貴女の心得

近藤嘉三先生著

實價金拾四錢
郵税金四錢

本書の目次は、淑女の心得、夫の心得、化粧の要訣、談話の心得、訪問の心得、賓客接遇の心得、室内粧飾法、和歌の書方、香道の心得、茶道の心得、新式和洋挿花法、家庭衞生法、其他數件、一々圖畫を以て平易に説明せしものにして貴女の友たるを得るものなり、

女學叢書

木村鐙子小傳

巖本善治君著

實價金八錢
郵税金二錢

木村鐙子女史は我女子教育界の寒梅にして、女子が如何に堅信熱愛にして、若かも貞節賢德なる婦人たりし乎、請ふ此書を一讀其爲人を知り玉へ、

教育主義

吾黨の女子教育

巖本善治君著

實價金八錢
郵税金二錢

此書は通篇、拾五章に分ち、紙數二百〇七頁、記載する處

女子教育

教育學講議

巖本善治君講述

實價金八錢
郵税金貳錢

我國女子教育に關する編者が積年幾多の意見と、其主義を代言するものにして、殊に明治女學校の教育精神、期圖を知らんと欲する士女は本書に就き閲讀あらんことを、

此書は君が、明治女學校高等科女生に口述せられたる講義中を要望者に頒たん爲めに廉價を以て發行す、

賢婦傳記

婦人立志篇

竹越竹代女史著

實價金貳拾錢
郵税金貳錢

見よ婦人の地位の如何に制せられて、其達し得る程度を如何に限られて、而して其達し得る程度の制限なきを、此書は女子の讀物として甚だ有益なるものにして、頒く之を世間に紹介す

產婦小供

攝生法

船越鼎太郎君著

實價金十錢
郵税金二錢

此書は姙娠婦人適當なる攝生法を、平易、簡便に示したるものにして、產婦必讀の書なり、

實跡統計

婚姻論

横山雅男君著

實價金拾六錢
郵税金四錢

此書は理論を以て是非を極論したる者に非ずして、著者は統計集誌に於て知名の人なり、專ら古今東西の比例統計を

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

採り以て、其國の寒暖生活文化の高低に因て、結婚に早晩あること、其實例照々乎として頗る我國男女の風習に付警鍼せしものなり、

博愛慈善

看護婦美談

久野久香君著

實價金廿五錢　郵稅金六錢

博愛なる婦人の多涙一生を捧げて看護婦となる、而して紀述の事柄二百數十頁を以て成る、

撰正百首

修正小倉百首

萬廼舍主人

實價金四錢　郵稅金二錢

我國婦女の毎春弄翫小倉式紙など弄じ之れを暗記成誦す、所謂戀歌なるもの殆ど其半に居る、其甚だしきものに至りては猥褻汙穢に過ぎたり、撰者は烏保不肖在原業平小野小町一流の人物を深く擯して此撰を世に公にせられたるものなり、此撰は伊藤仁齋好詠の和歌にして、其數二百八十有餘首にして一の戀歌なし、仁齋是を天皇に奉りたるものなりと云ふ。

女子消息

文のかきふり

小野鵞堂先生書

上下二册　實價金三拾六錢　郵稅金六錢

女子の書牘は、おのづから其かきぶり存するなると、近來茲に注意する人々稀にして、漢字がちにとち〳〵しき漢語をまじえ、かのこどもの書きなすものゝ、則ち文きやうに見ゆるそうたてき。そも〳〵文は、その書きふりうるはしければ、なんとなうゆかしく覺ゆるものなるを、女子にふさはしからぬ、とげ〳〵しき文字の流行すなれば、いかでと思ひたちて、連綿續つきの法を示え「御候」字などのみき

所をたゞし、熟語を除くほかに、多く假字文字を用ゐたり。云々編者識す

高等

女子文かきふり

同

實價金三拾二錢　郵稅金六錢

この書も亦女子の書翰のかきぶり、八拾壹題百四拾一章をつらねたる女子手跡の摸範とすべきものなり。

再校

かな習字帖

同

三册　實價各金拾錢宛　郵稅各金二錢宛

此の書は、各女學校の習學科に撰定せられ、高等中學二年以上に相當する行、草、時の習字帖なり、自修の稽古本に適當のものなり。

藝妓内幕

藝者と手掛

炭谷小梅女史著

實價金三錢　郵稅金二錢

此書は炭谷小梅女史が、藝者と手掛の内幕を遺憾なく披露せられたるものにして、市下諸新聞は之を轉載或は細評せられたるものなり。

貞節龜鑑

貞婦お石

櫻井成明君著

實價金壹錢　郵稅金貳錢

貞婦お石が實に婦人の龜鑑たるべき貧困の中に舅姑の病氣を看護し、不貞の夫が亡命して行方知られずなりたる后は、僻地に田を鋤き畑を耕し、其苦節言語に堪ゆ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

岡田起作先生書

かな習字帖

一冊 正價金十二錢 郵稅二錢

今なる習書ノ長短なるを愛ひ之へ適正ならしめて新教授法を發明せられたる岡田先生が多年ノ經驗によりて[illegible]習字帖は書き字體も亦自然簡單ニ中等學年に關する[illegible]習字帖に習ひして高等小學第三ノ第四學年級により高等女學校[illegible]年級ノ習字とすに適當ノ名なり倘ほ引續き高等女學校[illegible]學年級用ノ々んさす揃ゐ岡田先生は現に女子高等師範學校習字帖を發行[illegible]東京府高等中學校明治女學校商業女學校[illegible]成立女學校等(學校)より教授を托せられ各生徒の上達し[illegible]皆人ノよく道する所にり教授に托されての進歩かるの[illegible]皆あるを知るに足れり今此習字帖を出し世に問ふ[illegible]普新にるの患なくなり[illegible]

河村[illegible]様作書

十體千字文

千字文ハ[illegible] 實當教授ノ[illegible] 第十教習[illegible]

全一冊 和裝[illegible] 日本紙[illegible] 正價金拾五錢 郵稅金四錢

東京神田表神保町六番地

賣捌所 女學雜誌社書店

廣告

種痘(しゆとう) 毎日 自午前八時 至同十二時 無謝儀

東京牛痘館牛痘種繼所

神田區三崎町一丁目六番地

角倉診察所

窮士の子弟 貧名を救養せんと望む人あり年齡十歲以上十五歲以下にして衣食を托せんと欲する人々は來談あれ義上語介し且つ親切なるべし但よるべなき孤兒又可なり

神田[illegible]町二丁目十番地

紅雲堂主人

● 坪谷善四郎君著 日本女禮式(密書入) 四季の鑑賞 全 (第拾版) 正價[illegible] 郵稅[illegible]錢

● 坪谷善四郎君著 家政整理法 全 (第四版) 正價[illegible] 郵稅[illegible]錢

● 飯島半十郎君著 家事經濟書 全 (第七版) 正價[illegible] 郵稅[illegible]錢

● 女學士濱田健次郎先生校閲 濱本[illegible]君著 婦女教育 明治姬鏡 全 正價[illegible] 郵稅[illegible]錢

● 陸軍々醫總監松本順君閲辭 [illegible]太郎君著 婦女性理一代鑑 全 (第三版) 正價[illegible] 郵稅[illegible]錢

● 醫學士中村正道君著 小兒養育法 全 正價[illegible] 郵稅[illegible]錢

● 須永[illegible]三郎君著 婦女手藝法(密圖入) 全 (第三版) 正價[illegible] 郵稅[illegible]錢

● 第三高等中學校教授 醫學士高橋正一郎君著 通俗看病法 全 正價[illegible] 郵稅[illegible]錢

● 刈城森[illegible]太郎君著 衛生美身術 全 正價[illegible] 郵稅[illegible]錢

東京神田表神保町六番地

賣捌所 女學雜誌社書店

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

文學界

二月二十八日發兌 第十四號目次

野末ものがたり　藤村
花のゆくすへ　古水
花ごもり　一葉
翁のされごと　天知
活動論　秋骨
深草元政　蟬花
其他北枝發句集及時文

弊社備今般都合により左の所へ移轉仕候寄贈の書籍雜誌原稿等は凡て本社へ宛て送らるべし但し發賣は舊の如く女學雜誌社書店に候間注文は凡て發賣所へ宛て御申込被下度候

發行所　下谷區三輪町八十九番地　文學界雜誌社

發賣所　東京神田表神保町六番地　女學雜誌社書店

女學雜誌定價表

冊數		定價前金	市外定價郵税共
一冊		金六錢	金六錢五厘
十冊		金五十八錢	金六十三錢
廿六冊	半年分	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二冊	一年分	金二圓八十錢	金二圓八十六錢

一本誌購讀者は代價郵税共凡て前金御拂込之事前金御拂込無之ば注文有之候共一切送附不仕候

一本誌代價郵税共郵便小爲替にて拂渡局を必らず

一ッ橋郵便爲替取扱所へ宛御振込の事。

請取人は神田表神保町六番地女學雜誌社と御記入の事。郵便切手代用は一割增 五厘切手に限る事にて申受け候。

一本誌御注文の節は住所姓名を明瞭に記載し號數は何號より何冊分と詳細に御書遣への事。

東京市神田區表神保町六番地

發賣所　女學雜誌社書店

明治廿六年四月廿五日内務省許可
明治廿七年三月十六日印刷
明治廿七年三月十七日發行

發行兼編輯者　東京市麹町區下六番町六番地　巖本善治
印刷者　仝 牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地　根岸高光
發行所　東京北豊島郡王子村下十條八百五十一番地　女學雜誌社
印刷所　仝 牛込區市谷加賀町一丁目十二番地　株式會社秀英舍第一工塲（電話十九番）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY